

SNS 情報の分析で「ワーケーション」の浸透度を評価

2023 年 2 月

株式会社野村総合研究所

未来創発センター データサイエンスラボ エキスパート研究員

広瀬安彦

NRI は北海道大学との共同研究で、観光庁などが推進する「ワーケーション」を実例に、Twitter の個別投稿（ツイート）を類型化し、国民への浸透度を定量的に評価しました。投稿内容を、ポジティブ（願望、興味・期待、効果・効率、幸福感）とネガティブ（効果・効率、嫉妬・不快感、制約・限定、不安感）に類型化することで、政策の“心情的”な浸透度を評価することができました。

2022 年 3 月に NRI が開発した、日本の生活者や社会がどのような感情の状態にあるのかを指標化する「空気感指数」の知見をもとに、具体的な政策である「ワーケーション」を対象に、政策の浸透度を評価しています。

今回の評価は、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院の中川理教授との共同研究の成果を活用しています。

■ ツイートをポジティブ/ネガティブの 2 つのタイプに類型化

ツイートをポジティブなものやネガティブなものに分類するために、基本情動¹や生活感情²といった感情の基本的な単位についての先行研究³をもとに、ワーケーションに関連する特徴的なキーワードを可能な限り網羅した辞典を作成しました（表 1）。

表 1：辞典のキーワード例

タイプ	分類	キーワード例
ポジティブ	願望	広がって欲しい、働き方 + 理想
	興味・期待	ワクワク、刺激 + 多
	効果・効率	気分転換、集中力 + 高
	幸福感	癒される、プライベート + 充実
ネガティブ	効果・効率	生産性 + 悪、ストレス + 増
	嫉妬・不快感	イライラ、意味 + 不明
	制約・限定	時間 + ない、子連れ + 無理
	不安感	疲れそう、プライベート + 曖昧

さらに、2019 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日までの過去 3 年分のオリジナル（転送やコメントではない）ツイートから、各年 1,000 件を無作為抽出して辞典の精度を高めました。

■2021年に入ってからワーケーションの浸透度が高まる

ワーケーションに関するツイートの総数をグラフ化したものが図1です。また、ポジティブとネガティブに分類したツイート数の変遷を、それぞれが全体に占める割合で比較したものが図2です。

ワーケーションに関するツイート総数の変化を見ると、2020年7月にツイートの総数が大きく高まっています。これは2020年7月27日に首相官邸で観光戦略実行推進会議が開かれ、議長であった菅義偉官房長官が、会社員の休暇の分散や休暇取得に向けた方策として、ワーケーションの普及に意欲を示したことから、ワーケーションが大きな注目を集めることになったためです。2020年5月までの月間ツイート数が5百件以下であったのに対し、同年7月は約3万7千件（7月27日だけで約1万8千件）になっています。

ツイートのポジティブとネガティブの比率を見てみると、ツイート数が劇的に増えた2020年7月には、ネガティブなツイートの割合が大きく拡大しました。その理由は、ワーケーションについて多くのメディアが様々な観点で報じたことから、一時的にネガティブなツイートが増加したためです。その後、ポジティブとネガティブの比率は、以前と同等の水準で推移しています。一方、2021年に入ってから、ポジティブなツイートの割合は以前より高い水準で推移しており、ワーケーションの浸透度が高まったことを示しています。

図1：ワーケーションに関するツイート数

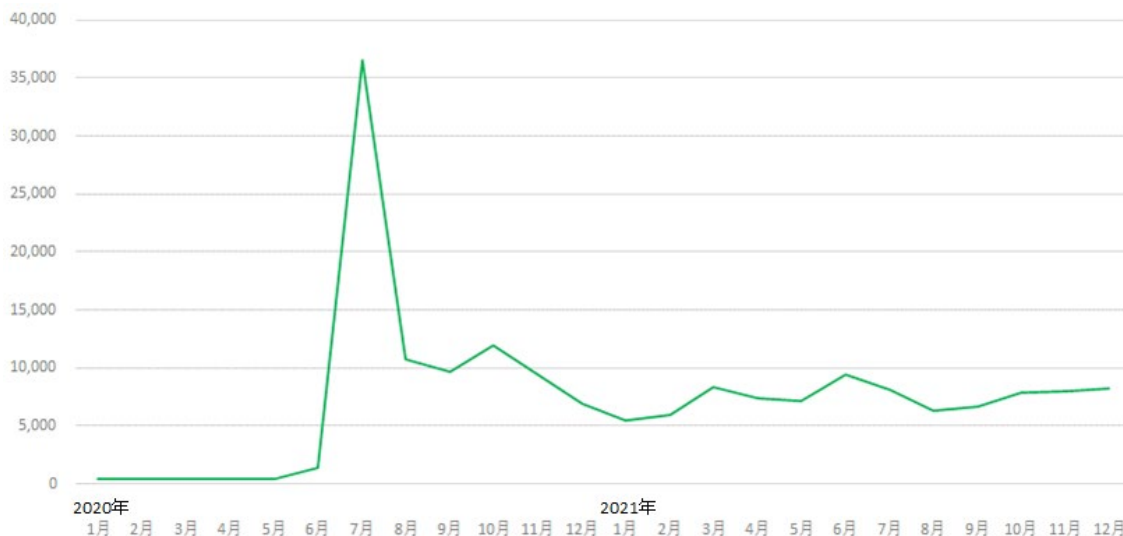
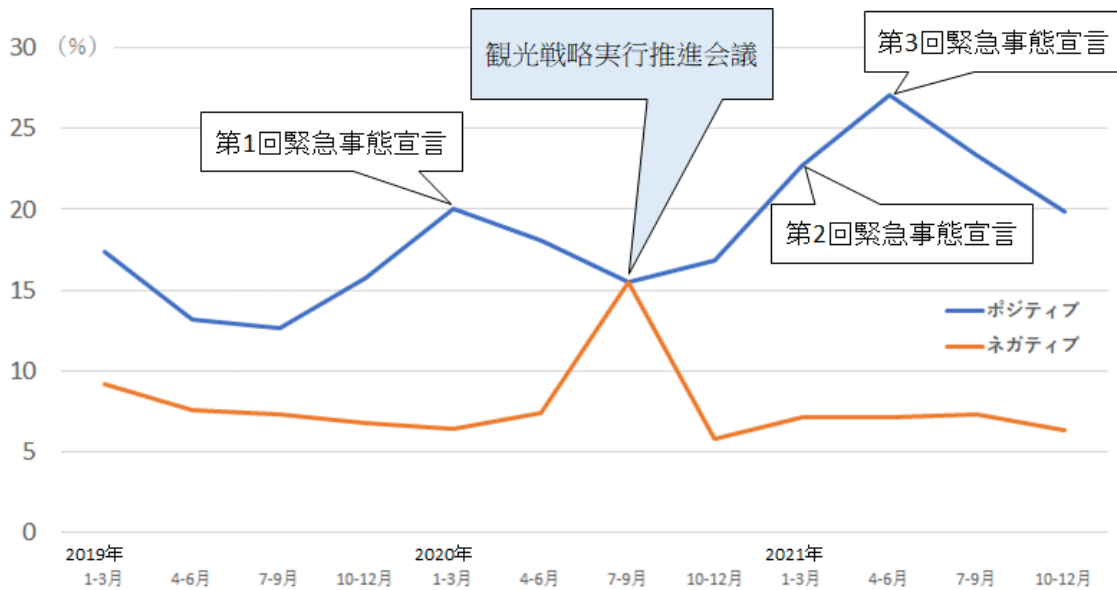


図 2：ポジティブ・ネガティブツイートの割合



■ SNS 情報の分析は政策の浸透度の評価に活用可能

SNS 情報を分析することで政策の浸透度を評価することは可能ですが、単純なツイート数を見るだけでは、正しく評価することはできません。それぞれの政策について、ポジティブやネガティブなど、書き込んでいる人の感情も考慮することで、浸透度を評価することができます。ポジティブな書き込みだけがが増えても政策が浸透したとは言えないのです。今回は「ワーケーション」を事例に浸透度を評価しましたが、この方法を他の政策にも活用することで、NRI では今後も政策の浸透度を評価し、分析結果を随時公表していきます。

ⁱ 基本情動：悲しみや喜びなどの一時的な感情で、それ以上の単位に分割することが難しいもの。

ⁱⁱ 生活感情：持続的に生活の中で感じ、生活を彩っている個々の感情。

ⁱⁱⁱ 基本情動については「Ekman, P. (1992). An argument for basic emotions. *Cognition & emotion*, 6(3-4), 169-200.」、生活感情については「落合良行. (1993). PD218 青年期における生活感情リストの作成. *日本教育心理学会総会発表論文集 第 35 回総会発表論文集* (p. 329). 一般社団法人 日本教育心理学会.」などがある。

【お問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 E-mail : kouhou@nri.co.jp